

## 日本脳炎について

日本脳炎ウイルスの感染で起こります。人から直接ではなく、ブタなどの体中で増えたウイルスが、コガタアカイエカなどの蚊によって媒介されます。7～10日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になることがあります。人から人への感染はありません。

国内での患者発生は、西日本地域が中心ですが、日本脳炎ウイルスは日本全体に分布しています。飼育されているブタでの流行は、毎年6月から10月頃まで続きますが、この間に、地域によっては約80%以上のブタが感染しています。以前は、小児、学童に多く発生していましたが、予防接種の普及、環境の変化などで減少し、最近では高齢者を中心に患者が発生しています。

感染者のうち、100～1,000人に1人が脳炎等を発症します。脳炎のほか髄膜炎や夏かぜ様の症状で終わる人もいます。脳炎にかかった時の死亡率は20～40%ですが、神経の後遺症を残す人が多くいます。

## 乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンについて

日本脳炎ウイルスをVero細胞(アフリカミドリザル腎臓由来株化細胞)で増殖させて、得られたウイルスを採取し、ホルマリンで不活化(感染原性をなくすこと)した後、精製し、安定剤を加え、凍結乾燥したワクチンです。

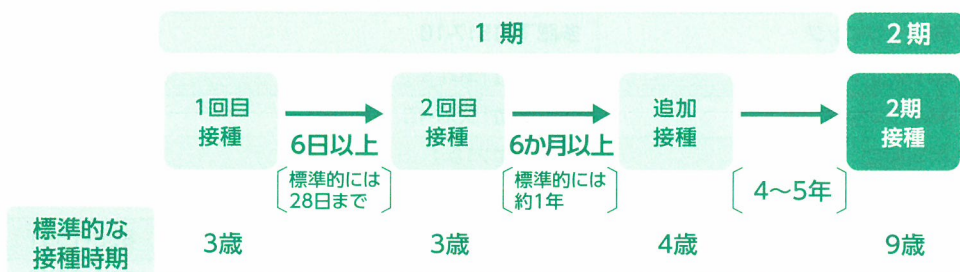
## 副反応

主な副反応としては、局所反応として紅斑、内出血、疼痛、腫脹、そう痒感など、全身の反応として、発熱、発疹、じんましん、頭痛、せきなどがあります。また、重大な副反応としては、極めてまれにショック、アナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)、けいれん、血小板減少性紫斑病、脳炎・脳症があらわれることがあります。

### 対象者及び 接種スケジュール について

	接種回数	接種対象者(対象年齢)
1期初回接種	2回	生後6か月以上 7歳6か月未満
1期追加接種	1回	
<b>2期</b>	1回	<b>9歳以上13歳未満</b>

※接種対象年齢を過ぎると、公費での接種は受けられなくなります。



※1期の接種が終了していない場合、不足分を接種する際は、任意接種(有料)となります。予診票は医療機関でお求めください。

### 接種時に持参するもの

- ① 日本脳炎予防接種予診票
- ② 母子健康手帳(接種歴を確認するとともに、予防接種を受けたことを記録します。)